古今和歌六帖標注

五

特別
イ4
3163
97(5)

貴
14
2163
97(5)

古今和歌六帖第五

雜思

きゝぬ人　いひきゝむ　さゝへてふ　さゝめてある
あしゝさ　おもふ　あひそふ　あひそはぬ
さと人を　思ふ　いまでそふ　人もきゝぬ
人のきゝも　きゝてそふ　ひとりぬ　ふるかをり
ふきを　くる程を　一おもへばてる　二おもへばてたる
物へばてたる　晴のあく　とゝへばてたる　きゝを隔たる
うちきてあへる　日はへばてゝ　物ごゝろ　ちゝくてはへば
人をまゝ　雪はま　人をよぶ　そのたゝり
ふゝたゞん　人をまゝぞ　ゝまゝる　いはまゝぞ
ひゝげて

ゐこのたる　わどうく　むの玉ふ
むゝあつる人　けりらふ　人をたゞぬ
めづらし　たのむる　ちぎる　くちうむ
人ばま　家寺をふ　ちこうふ　ふひうづふ
ゑれどあいぞ　人をとぶむ　ふひやそ　なをぬしむ
をゝまぞ　なき名　とぶまゝぐ　系せた
うゝれづま　ふおき呂ひ　つもぎもこ　たんよ
かゝゝ　くをのひな

服飾

玉ゝげ　玉うづゝ　かゝ　ものひ
ゝ　たま　玉のを　玉だゝき

かゞゝ　まくら　手枕　さゝ
きそも　塩やき衣　袖衣　秋衣
衣うり　かり衣　きぬ衣　あさゞ衣
このゝ衣　ぬきぎぬ　ざふの衣　ふはま
裳　ひも　わび　ひとり
きのゝ　ふゝ　碧　ふゝ
ゆゝ　や　たち　このたな
さや　きのり　あふぎ　かさ
ふの　ゝゝ　はと

色

いろ　くまなる　むゝさも　くちなゝ

みどり
錦綾
ふしき　あや　いと　さく
ぬ　乃

宮内省図書寮

新勅撰戀四　御形宣旨

大宮ふるこがおもふ人をやどらんあるがむるもをぐるおもをとおもくむ

大宮ふるこがおもふ人をやどらんあるがむるもをぐるおもをとおもくむ

なつのころの女郎

万四　新勅撰戀四　大和

春去者紀之許能暮之夕月夜覺束無裳山陰爾指天

万七

真淵云此あきらかなるをのうらに

あらぐるこゝに入るゆいうに

拾遺一　躬恒集

後撰二　家

友則

新古今覇旅　業平朝臣

古今戀二　たゞみを

たきつせをふねさゝぬ人なれとうもれはするる水

埤雅釋魚云陰陽目然變化論曰龍不見石人不見風魚不見水鬼不見地

後戀二　くるぬ

つゆ深草ふるき入はのうきてる恋も絶する恋

紀伊

万十一　續古戀一　ふちゝ　万續

この山ふちもの岩とこゝろつる有の宮ある恋もたゝる水　もち方

古戀　貫之　家

世よ中をかくそみられぬ風のめるこゝぬ人も恋しうらゝ

いひそむ

後戀六　人もとゝ　躬恒集

思ひつゝまゝいひ初ぬ恋恋もあれ　人よ人ゝ　きゝせてゝ　後

同

おもひ法へよるる恋まときるべきてあるる物ハ人ありけ

まもるくもいひこゝ人の恋きゝ初てようあるんなるべ

古戀一　よゝへ　伊

恋るしらぬなまうあやあくゝきてはこん思ひのゝ社恋ゝ

万十　夫雜三　岡人

出てこるむらひの思ふまく恋ハ　に方　くく方　もも方

新勅戀一　よゝ人　ゝ　躬

ひの思ふまく恋ハ　夫雜七　浦

浦ふきたるする白波のきゝ　ゝ　ゝ　

第三句出
思ひ河ながれぬるせなるべきとみなせあるうきたつ人よあいで消めや

伊勢

後撰四
やまびこの後
京極公家
たてゝもまつ人ぬる後
びとめ方仲平公藤原邦宣公男
ぬるこゝろ物思ひそ志後
志ぬ人きみ
はたらめき

いくひさゝ系ふりめきやあるこゝろ
万至 新十意二人丸 古本人丸集
あお姉の松をまつきゝ姉と新
きゝ古
新古意 西宮左大臣
と月ゐ
と新
しゐ新
の新
ひて新
古意一よゝべ
稚あれば岩ゐ
上野
古意一貫之
新撰家
岩ゐ

万葉十一
相見而幾久毛不有爾如年月所思可開哉
日ごろへぬるの後もいくひさゝ
あゝあくあくあくまさればいくひさゝ幾久
ひさと思ふる幸ふ
後撰意四
たぬハあれどあふるゝ
まうて年をふるひハあ

万九 拾遺 新大首
なゝはみそ四つ
たゝちの
万九 拾遺 新大首
たゝちの
家
たゝちの
家
たゝちの
家

新勅撰戀二　よみ人しらず

いろとうつる物思ふこころまのあさくて
の〜ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

天寶道車に揚貴妃初乘鳳呂輿父母相別泣淳登車埼天寒淚結為紅氷

古今二　家

白玉とこゝろ〜〜ほもかへ〜ふをばのこふよりうろひよけやと
こつね

同　後慈五社記矢宮　伊勢集　業平集　世六

たのめつゝあ〜てまつるいとうふまつぬゝと人〜ゝまつ
是也

同五

あまとまを飛ふ〜〜ゝ拾ものをとこ〜〜ゝ拾ものをとこ〜〜ゝ
万十

あ〜ゝ玉ゝ玉ゝ玉

万葉四
戀々而相有物乎月四有者夜渡隱
良武須臾羽蟋待　　大伴坂上郎女

拾遺戀二　　平行時

続古今哀傷　　藤原孝標朝臣女

後拾遺雜二　　よゝ人きゝび

後撰戀三　　坂上是則

仲文集

彼人に

人麿

大伴坂上の郎女

平行

万葉十一
中々不見有從相見戀心益念

あふ標と注連とのうるもとあるべのせたり注連ハ書紀神代巻天石窟戸の條に於是中臣神忌部神則以端出之繩俱梅雝枝乃請曰勿復還幸云　まき和名抄祭祀具云注連師說之利久　まき万葉二如是有乃豫知勢婆大御舟泊之登萬里人標結麻思乎とあるられあるくふいふもめ則まきとあるべ繩のまきとされば標も注連も牛の意ハ上あり標ハ和名抄雜藝類云本朝式云五月五日競馬立標標讀師水とあるこれ」

椿園翁云けだしハ万葉の蓋をよミ又かあるも也ていと多かるをおーるて考るべきハ余もやとうぶふまそ礼記檀弓疏か蓋是疑辭とあるに

あらねり」

万葉十九　家持
妹爾似草等見之欲里吾標之野邊之山吹誰可手折里之

拾遺一　古本集　廿六
あひ[illegible]の浦ろ[illegible]ぶまば[illegible]物をおもはざりけて

やうもち

万三　夫雜十四標
足引の岩根のきよみ夫の方
[illegible]き岩の松のひけばうごくと[illegible]夫
[illegible]ぞ[illegible]

大伴のさるのまろ　傳未詳

同　同
心ぬ[illegible]ぶ[illegible]ありとも[illegible]ぶ[illegible]ぬ[illegible]ぶ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

万葉十七
安良多麻乃登之可敷流流流麻豆安比見祢婆 下同」
百ふりてゐるゝ花をよめゝゝと
あるよろゝ 神代紀ゝ情愛を
めゝゝとよめりゝ万葉十一
人毛無古郷雨有人乎愍久也君之
戀雨令死

万葉廿 後雑部ひゝゝの条
君もおもへゝゝ
同十 人丸集
同
百ふさびたゝ山河

同十一
うなゐのおきつあるゝ
百ゝ
百二鏡王女
おく山の山づる

続後拾遺三宗于 古本集
賈之集
家
撰ちうゝ

万葉廿 鏡王女
おもへれば
浦吹風のやまぬ時も
るなゐ 万後
ふひと 万後
ゐるゝ
ゝ万人
ふふ万
ぎ万
ゐ万人
ゐ万
ゐ万
ゐ万

万葉十一
吾妹子之吾呼送跡白細布乃袂漬左右二哭四所念
同二十
比佐可多乃安米波布里之久奈豆之故我伊夜波都波奈爾故非之伎和我妻
大伴家持

後撰戀六
おもひつまじひるあぬコが恋せおもひをそこもとひあ〜ハ〜るる古語あり〜るあるべ〜
よみ人しらず
おもふ〜〜〜

せよとやもむ　ろくのみそぎをとりあつめて
もーれのみれ　こゆきをやこ」

人麿

万十一　古本集　やぢを　百舌　みちゆきびと　方　がろふきーハ方　のーー方　ものも　ものり古　がおもふ　ハ古
うちひさす　みやこ人　おほろかに　こもりのみ　こもりてこふる　たづひとり　ぞ　ぬるー信
後憲三　忠孝　家　古本信明集
思ふてあやまちもとなる　ぞ　ぬるー信
代憲三　古本　人丸集
てこちもとちへよりきるみこのまくぐる人も　一のきん　妹　あいぶ　あいぶ古　文代
万四坂　三雜六河
うつくしとつゆ思ふいもやかわのせきとも　きー方　おやこづまん

いさでおもふ

大
ぬるもの　さきはりのつまこの人かいもとで　思ひでいふよまさ　ぬる
古憲一　ようこ
あふ坂のせきは　清ぬ　岩ほ　おいたぶ　こころおもひこそすれ古　社　ーーうらん
猶さきうこぐ　舟のほよあげていぐーもこそ　恋ーうらん

とまのつま

古憲三　家　摂津
さくらいでいもぬ　ぞ　ぬ　国　この　ひて　ぬきまの　ぬ

古今戀一　よみ人しらず
見ーの　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　たぎつこころをせきぞうねつる

万十一　家　やま万　ものり家
さくらよ出ーいでぐ　みかわのたぎつ　ぬ　せきぞこの　たる方　ける

伊勢

人まろ

第四巳出
思ひ　ぬ　ぬ　ぬ

要文

後憲二 拾憲一 家風体
色あくまでうつるぞくろも染てまし思ふ人袋しる人のあ我ぞ家

万十六 夫雑三屋
あさこあるのひやぐるあく性思びつあとつぎんまもの形

古憲三
名れこのきしうもれ本あらまぐいうよんとあひえ初そん

第一已出
さくのあまよを初まの秋を空みきくふつくともそよ出めや

万七
あ大和
古憲二 寛 新撰 友則集
川のきふなびくまものみぐまきて人よしまぬ恋もするれ

同一
人しまぬ思ひきるすぐのふこそ家あるる

万十 夫春六 藤
為沒よ笑 赤人集
さけるきるぬ方 るれがよひ久くもあれ赤
よ雪のふんちくくも流つるるたてぐそおもふ

なのふそのくきるも焼ふの打思びかもんやせをびつくさん

万葉の傍訓不忌添をいくしやみくよもべ

万十 古本人麻集
人言を思ふ思ひ人ぬ方
同 同
新撰 人
第一已出
後憲五
夜の明よりの物思ふ弱のつぐそぐあきのるるまよおくざりそ

万十 夫冬二霜
ぬきくまの雪をぬくふ方
第一已出
我やどの秋きぎのふるおくあれいちくきも恋めやる

古憲一 新撰
きのぶれびくるきを人くまずまてふこと後よるくん

新勅憲一 夫雑二山
加賀
ふのきまちるまこれあまやちすきこてこあ後あるむ

万上
おろくつまあくのくくまかくのくまもれいづれの時ふれ恋ぶくん

同九 拾憲八九 古本人麻集 新古人
ふくふふ思の浮まいでぎくのうちよこつるまよころ

万葉十
吉名張乃野木爾零覆白雪乃市白霜将戀吾鴨

同十七
荒津乃海之保悲思保美知時渡安礼登伊頭礼乃時加吾孤悲射良牟

同十二
人言繁跡妹不相情裏戀比日

古今戀一
夏ふれば宵ふまぎかやり火
いつまで多ヲトもそなません

万葉十一
十寸板持盖流板目乃不令相者如何為跡可吾宿始兼

家
さくまのあまれさるまる垣手のもゆれども人よりまぬ家意まるん

つゝゆよ

家
あひゝまばいるゝゝじとのゝなげくあれさずふたゝゝ人まれめ

人よまるゝ

古意五伊勢 家 新撰 金玉集 たゝ 古金集
人まるゝやゝあまゝうばるびつもなき名ぞとだよいもまゝ物を

同意 よゝ人ゝ
おもふこのハ思ふるたゝぞまよはるる色よい出ゝとおもひゝその我

万 京人九集
小男鹿のもの〳〵ぞふ いちゝろく妻ハとふぬよ人よまるゝん

ほづゝのゝうゝ 万葉と同じ

同二 但馬皇
えとゝをまぶゝちゝおいの世よいまゝ逢ぬ世にのゝるゝ

人丸

ゝゝふおもひ物をとれ山の初もゝぢのもよ出るけ里

万葉八
長忌寸娘
布勢見跡吾念君者秋山始黄葉開
如許曾有家礼

此うゝ夫木秋三庶よゝ人〳〵ゝ
山科の山のもの〳〵ふも庶のゝゝ
又雜四野
やまゝろもやまぶちの形ふす庶
のゝゝとありを掛ずるまゝまゝ
ふけのをとあるハまゝくうつ〳〵
湯殿ゝ
真淵云 おゝホ八束とあるハいゝ 真
楯とあゝゝめゝれて後のうゝあれゝ
おちゝをそ見べうゝ里」
第一帖初秋
あづまぶりいさめろゝとハ初秋も
ちゝき おをひゝゝあゝゝ見ゝ名ゝ

万二作者未詳
さゝもり江の下ゝ意あまり白浪のいをゝゝく出ぬ人のまるゝ

ひとまろ

山ゝのゝまゝみおもをゝふを庶の名ふゝまて人よまゝる

やのをち

おひとゝを里

万八
さのまゝて意見やいゝゝあまざゝろ出て見ねば意つゝぞをる

菅原やはら

いゝのふゝゝ意をゝばゝゝん月影の指ゝびゝる おをゝもてる

美濃
我のゝと見ふゝやまのいゝさあ里いまゝゝる見をゝおひあゝつる

万十 夫秋四月九
きゝゝふゝと意ふゝゝゝぬれ意をまバ秋風吹て月のゝゝぎぬ

同十
ぬゝゝ里の指ゝゝる月の名れバ 更や妹よ 系意をゝん

第一巻出
秋をちゝをなゝる里れ ゝる あゝよ 指 知るゝゝゝゝる指ぞおゝき

万葉一
倭戀猟之不所宿爾情無此渚崎爾
多津鳴倍思哉　　忍坂部乙麿

万葉ふくさりにとある所一河内之
同十五　冊比大夫
多都我奈伎安之敝乎左之豆等姚
和多流安奈多頭々々志比等里佐
奴礼婆

人麿

万十一　風憲三　古本集
ひさかたの天の川原に天つ女の
うちぐれて　あまの衣おもひそ　万風

大伴坂上郎女

同八　拾貢
ふる郡いくく郡ゆそ　狩ゆていの郡くまめの宮ばくるしも
かさの童村　万葉七中

同四大納言大伴卿　續後撰旅　夫雜五江
ふさくるの入にまあさる芹田鶴のあれたづくしを哀ふかして
万夫
代勢上　伊勢集　伊
郡の野ふ郡その小野に鶴ある人のふまる郡るべし
代　集

人まろ

ひとり郡

玉憲三　代憲三　夫雜九鶴　古来集
鶴のたねよ郡まふりさむき郡を鶴や郡ん郡る郡ゆて
万十　拾夏　人麻集　赤人集
ほたいぎ郡ゆやさ月の郡のみどり郡も郡めれば郡あの郡かまつも
貫之集
郡風よ郡の下葉郡ゆ郡ろへば郡ろめるめぞ郡ゆ郡ける

家持

万八
沫雪の庭に降まく惜きを寒きを堪へて君が我を待つらむ
古来免集
うちなびき鶴めれば鶴くる郡ゆ郡ろ妹よ郡ん郡ろも

人まろ

万九　新古憲五　き万新
玉匣あけまくをしみ郡を衣郡ゆ郡れて郡のも郡ん
古憲三
あきかれば山とよむまで郡る郡ゆ郡ろめや郡ろ郡ゆ郡ろも

作者由き

拾雜秋　家
鶴郡ゆ郡を郡ん郡ゆ郡ゆ郡ゆ

万葉十
黄葉千今落四具礼能零苗爾夜副
衣寒一之宿者
このうらのいさらかたれるへまて

同十五
安之比奇能山下比可流毛美知葉
能知里能麻河比波計布仁間安留
香母」
契沖云ひもを結ふを契をむすぶ
ふよするふそれがたゆれはもし
みとハいるなり

家持集
おく山のいはそのはなひさふ
下同

万三　玉憲二　夫々二水鳥
大和
かつの池の入江めぐる時ぞ玉藻のよる猶かやく不
そみだれそ花のまぎひよそぐんしておさへで去き時と紛ぐ

きの王女

要　く

新續古憲五　代憲　家
ハ家
万四中臣朝臣東人
ふるうもそ

古憲
石間もるなかくこそあたるべもみられ

法　ゆき

同友則　友則集
たまびく山の横雲ふるまでもあるべるもみの紅

源義文

田井ハ万葉ハ筑波嶺のもそろ
たるおくこそ田ふまろするふを
いふなりそのことハ師の万葉考證
ふ〜〜〜〜〜〜

万葉十一
暫不見戀吾妹子日日來事繁

同　後六
あきはぎ
後遠
あきのおとこ
たるもみれば田井ハ先嶺壹すれ
ゆげの王　万葉
万三湯原王　夫雜二山
やま　万夫
同九　同春三柳人丸
かきつ
同廿大伴宿禰村上　大和
万
万
万

[illegible]

同憲三 吉本集 新朝 小町集
[illegible]

同 [illegible] 家
[illegible]

万十一 新勅憲 夫々二十島 吉本人丸集
[illegible]

同 人丸集
[illegible]

同 夫雑十萬[illegible]
[illegible]

あうつきよおく

閑院の大臣

吉憲三 藤原国經朝臣
[illegible]

[illegible]

新勅撰戀四　中務

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今戀三　[illegible]

第一已出
[illegible]

吉憲三 般行 家 寛
[illegible]

後憲四 貫之 家 捨遺三 朗
[illegible]

万十
[illegible]

伊勢集
[illegible]

[illegible]

後憲三 貫之 家
[illegible]

万四 笠朝臣金村
[illegible]

同十一 吉本人丸集
[illegible]

[illegible]

古今雜上　是則
[illegible]

後撰戀四　忠房朝臣
[illegible]

伊勢物語
[illegible]

五品 [illegible]

[illegible]

家 [illegible]

一枝へぐてる

大和 [illegible]

夫秋二薄 河松尼 [illegible]

[illegible]

同雜十藻 家 [illegible]

新勅撰 [illegible]

五品大伴女郎 夫雜一兩 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

玉くしげハあけんとづゝ冠辞あるふるとゆいつてとらへる一句をへぶ
ちかゝる新ハ万葉四ホ
雨障常為公者久堅乃昨夜雨雨將
懲鴨こゝの新ハ万葉ともゝ多り

契沖云ひとまハ人のあき間ゝ舒明紀
ふ間の字のゝをヒトマとよあり
古今ふハいつの人まにうつろひぬゝん
ともよありさぶハ比とらふこゝをこゝろ
さぶ初きハ人ゝるのおろおろ
きといふこゝゝ

の〜

拾雑秋 家 躬恒集
あひゝまもて一日もゝ
ゝ拾家躬
ゝ
ゝ
ゝ

みられぬ人をこそきてあらめいづくにか
いつくしきとてうらをこそうらん

喜撰式能因哥枕冥土をみくき
とりつとこそ大和物語
大淀の浦にあらぬきたえぬとも
あまうらうらみんさかのつくさ城
源氏夕霧巻云なくぶのみくきふ
さかしらつくちしてかきやりたまふ
むさしの野の草のまに圓珠庵雜記
玉かつまあらはれいでぬとおもふ
をぶきう

白ひみてをもくなげくまきて敎きしまの城月のあるなる　肝消

いづくに河のたえんあとふ思ふにあまりぞ三日夜系八十すぎぬ　拾

五九

立うをる月をあかりてあらまどもさらぬ高くまた面影すしてを

あしのはにあらぬ人のよりてあるまよどもこがれもんある法の船

人麿

五十一　拾遺二家

あひみてはいくえもさくらもあるかくふ夕月のまてあるこの船　ねども拾家　ひさる方

同九

かきわあるく人のよりこまとおもふきもあるまおそく月のへぬくん

とりへぶてをもる

くるのこハ妹もぶきひぶ船おく山は岩よ苔和ひ久しきその城

ひとまろ

吉本集

あひをずてをまハへすけりあやしくも妹をこそおもふくるる岩　そ古　るハ　赤吉

山乃可比曽登毛見延受乎登都日毛昨日毛今日毛申言能布祢婆　紀朝臣男梶

此らまあ小名ちくらくとあるよち

万葉ホ小石の訓をサヒとあるホうそ

夫木ニ志らめり得くホ石ハされ

名とそよもあされるいひて

うあハめく」

和名抄巖石類云纖砂日本紀私記

曰満水」

古今戀五

いまハ人とひ〳〵ぶをきぶの

ぶよかりうをもたのも

順集

ちくしもそをもくひもきのつもるふるふる

大伴郎女

佐保河の　万四　夫雜六河　され夫

さをあらハのまれごふふ

万四　曽我郎　くちくもの徐再出

曽我のこまのへ四げバいまハとあよらぶせこ我名つゆされ

あ安王　春日王御子

同

をきくへのをまくまぶへぶて立て年ぞへるるをまぶく思へぶ

い世

家　河傳本

年ふれどをるくをまぶ紀人のふるとめてぞ形きれ世ぬ　ぬ家河　王河

をぶへぶてたる

万廿　家持

もくをの形立いるぶらへハさやるよふつ思ひ〳〵まとく

万葉五
波漏〻〻爾於妥方由流可母志良
久毛乃智弊仁遠多呂留都久紫能
君仁波」
同十四
安齊可我多志保悲乃由多爾於毛
微良婆宇家良我波奈乃伊呂爾氐
米也母
契沖云みちのくふのあさうあるべし」
同十二
月影而君乎婆見吾衣鴨日毛不易
為而戀之童

万十一 夫雜七 沔
いてゝなんて来てぞ恋しき新まゝ恋の多きてゝ恋ひあらもあらじと思へば

第二巳出
ゆきやあらぬ行ぞ我の那もこちはまさもあらじと思へば

法こゝゆき

後憲三
月うへてるちぶうとゝひ〻ぐ見ぐよくゝられば恋しき物を

宗持

あ〻ひきの鳥ゝてとらまきぶ〻てゆけ〻るみえけ雪

石上ひまろの人

第一巳出
おくゝてゝづもやいばこゝろめたぶびくゝふをゝて来ゝをん

人まゝ

古本集
まゝ百よ衣の袖はひちあゝん妹ぐ家ゝ氏ゝ山ゝまゝをん

真淵云山大系ハ山ゆきよあゝゞ大和へ

万葉十一
眉根削鼻鳴紐解待哉何時見念吾
君

注ふ人られをいふとき鼻ゝるとぞ
毛詩邶風終風篇云寤言赤寢願言
則嚏箋云我其憂悼而不能寢汝思
我心如是我則嚏也今俗人嚏云人
道我此古之遺語也
和名抄鼻口類云玉篇云嚏和名波奈比流
噴鼻也
きゝ眉のゝるきふ人ゝこひらゝ〻ゝ
〻ゝゝとぞ
遊仙窟云下官昨夜眼皮瞤今朝見
好人
今案ずるふ玉〻きて行ゝもとゝゝをを
ふゝ玉ゝゝゝゝゝ玉ゝて人ゝ

万四家持
かゝてゝゝゝゝゝ

結び万葉ふおもて不とあり六ヶ
玉敷而待益欲利者ニ
豫公來座武蔵知麻世安門所屋戸
開毛珠敷益乎

古今夏　ふるやぶ

なるの歩はまぐ雪あぐ所めぐを
ゆきれいつてる月やどるらん

後撰戀一　よみ人しらず

なるるとふ山ぞとぞ思ふ
きとあり山ぞよ　ゑ〜きやまぶ

万品田部皇樂子　かみの條再出

おきてゆらば妹まひんらも妻ぬの手ま歩まはて　ものきこの拡球

ものこと

後戀　と後

晩をと行の〜いひそんろ　後イ

あくるまでみるぶよあるぬ
万八加茂女王

妹の門を敲行く所の行もあく思ひ　きふあくるこよひの

ものこと

芦垣よ月そのぼりぬいでとくそのあのあのむきあ物ぐろきん
兼輔集

いすくへよるみるくべ時をいろよ考ってろふるきれきて歩

あるる時ハいろの主さひ　ようこ考き物とふてぞ〜る
拾雜賀一条摂政　夫雜十三里

いつ〜うもひてうくん思ふこといふきのさとの信ううう〜我
あふこのうちの拾夫イ　近江

ふれば〜拾

るとあれとたつるふ山もまぎぞふ那どやあ〜ん〜ん人ま〜み
いま椎イ

五之十八

ちゃくてあちゃ

白雲ふのまつ〜さとのふ立ろうふ雄ちん山ちの〜冥
古憲　よみ人しらず

ひと〜きぬ思ひやに行のそあ〜坂のまぢうれども山よ〜のあき
後憲　よみ人しらず　伊勢集

青まのく山ちをまくん　うち後　思東は山下ちあ〜ぬまの〜所

たぐこふ思ふまきあ〜すく深のたぐれ時ふその姿らん
古来人丸集

たくまもさ〜うつぐく白それど人めをおろく言つてそもとる
風雜十貫之　家　小古

ひのたる入ちんとする月たつ系ぐ〜ぐあらんとやする
風家

續古憲一伊勢　家　代憲三

のぎり形く思ふ深やの〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ
おる家

人をまの

万三

おもも雄ぐまつけもなどの〜白妙ふ元まとろ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ
しやすくもあ〜ぐ方　もぬが〜たぐ方

つ〜ゆき

万葉十二

將相者千遍雖念蛾通人眼乎多戀
乍衣居

古今戀三

おもも人めつ〜ものたきれば
よみ人しらず

うとうとうふ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ

古雜上 拾雜憑 家 和泉

代憑二 貫之集

古憑四

第一已出

万十一

同

同 新千憑三

古秋下友則 家 菊合

第一已出

古憑五 兼盛集

万十二 拾憑三 人集

續晉陽秋云陶潛九月九日無酒於宅邊菊叢中摘盈把坐其側人望見白衣人乃王弘送酒即便就酌而後歸

此うた袖中抄第十九ふ山のもふいでぞいざよふ月まつと云ことひろう

万葉三

妹家前有梅之何時毛何時毛將成時雨事者將定

藤原朝臣八束

宇津保たぐこの巻云よるひる呂ひ付る人のいまゝくしするまで云ゝ

古今戀五

ひさくもおりよりのり所位事の

下同

古憑四 朗詠 家 秋

第一已出

古憑五

第一已出

伊勢

新勅憑五 家

万四

待

素性

大伴の坂女

此歌は万葉のうちにうつしたるなり

拾遺神樂歌

すまのうれたきしもせぎこんぬのゆえに
ゆきくやくもをまつといそれん

真淵云この名されバのこと詠花は
うとそうこそ名ばかりなれ

万葉六
我屋戸之梅咲有跡告遣者來云似
有散去十方吉

[illegible]

同 人丸集
[illegible]

万八 巫部麻蘇娘子 家持集
[illegible]

同 [illegible]

同 [illegible]

同 [illegible]

古意四 [illegible]

夫秋 紅葉 又雜四春 [illegible]

[illegible]

拾遺春

[illegible]

後撰 春下 清原深養父

[illegible]

カ十 同雜三 [illegible]

同 人丸集
[illegible]

家
[illegible]

万八
[illegible]

躬恒集
[illegible]

後春中 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

古木躬恒集
[illegible]

万二 玉葱堅堂郎女 古木八九集
[illegible]

古木集
あもりきなる花の像よりふれどあさくあぐる水めぐる形

躬恒

さくるるの大元 傳未詳

万八 玉葱[illegible]
七月のたなばたの和歌の[illegible]

ふくたぐへ

ぐるかのあいし

古意四 新撰
たまぼこの[illegible]

[illegible]

夫雑八 磯[illegible]
いづくとてふくまぐさとる[illegible]

常陸
[illegible]

句題和歌集の末か
あづまちふへてとうもむさあぐ
ふくたがふなくおもひてやる
伊勢物語
むさあぐさすがふてたのむ
[illegible]

[illegible]
かるとうやくちをめくん
庭訓往來云上総鞦武藏鐙云云

拾遺賀
三[illegible]
[illegible]

文選嵇康與山巨源絶交書云私意
自試不能堪其所不樂自卜已審云

万葉十二
白細布之袖折返戀者香妹之容儀
乃髣髴二四三湯流
[illegible]
[illegible]

ひとつく

万八大伴田村大嬢 拾雜春六伴像見 大夏三 時鳥
古今の[illegible]
[illegible]

[illegible]

後雜二 貫之集
[illegible]

第二已出
[illegible]

[illegible]

古意四 人[illegible]
[illegible]

山城
大[illegible]川 せきのふる[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

いふことハ[illegible]ば衣をよ[illegible]てゐハ

古今戀二　小野小町

いとゞあてはしきはハぬばたまの
くるるの衣をうしてぞきる
[illegible]

新古今戀五　藤原元真

世のうきも人のつらきも思ふゆゑに
思ひしきえぬ思ひとびめる

万葉一長歌ハ秋山之木葉乎見而者黄葉乎婦取而曽思奴布青乎者置而曽歎久曽許之恨之秋山吾者　[illegible]

続千載　代憲五　家　[illegible]

[illegible]

家

かりがねのまつよ来ふるる君ゆゑにいなびきとゝのうぬべくあり

わ[illegible]

小野宮左大臣　実資公　清慎公男

後憲三

[illegible]

夫雑九鶴　新明

[illegible]

伊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ろくもの條をよくゝるふもとめの一首
おどろのの歌もあれど次の四
首ゝをいのちもの歌氏歌あるべ
おろの此條錯乱誤脱ていく
うぶれたることゝ西

後撰雜一　女のもと

小山田のおろのもゝまもぎゝを
いと切るるあけきゝ歌西

同戀五　本院のゝ

ゝれ神ゝひゝゝあふ恵あれど
ゝゝめもつゝきあるゝける

真淵云万葉ホ天皇思酒人女王御
製とあり是八聖武天皇の御事く
さるゝと天皇とあるふもて天智の
御ることゝ思ひてあるのみゝと
ゝ八ゝゝるあれど

おどろのの
續後戀五人麿　足曳の山田ひろの初ぶるゝ人を初ゝらさこの歌
ゝもゝきゝ初ぶあるゝ初ゝかゝ初ゝゝゝゝゝ物ゝさゝる
後春上朱雀院左部卿親王　櫻ゝゝゝゝゝ

臺吾麿しるしあり おきまろ〻意ハふるく
おのゝ名ゝ用ゝ

五二 夫雜八岸口
岩代のさ[illegible]松ゝ結びきん人ゝ[illegible]ゝ又をゝん[illegible]
[illegible]

人麿

真淵云此ハ或本のうゝて右の臺吾
ものゝうゝを多く誤りまのあり

同 玉雜五人丸 夫雜十松
のちゝんと思ゞ結ぐる岩代の[illegible]ゝれをまゝ[illegible]

[illegible]

年ひさゝ[illegible]

[illegible]

業平

古憲五 家伊
つきやあらぬ春や昔の春ならぬ我身ひとつはもとの[illegible]

[illegible]

五四
[illegible]

同七 夫雜二山城
[illegible]

[illegible]

貫之

古語拾遺岩屋戸條云阿波礼阿那
於茂志呂阿那多能志云云

古憲四 家
[illegible]

新古哀傷清慎公 伊勢集 朗
女[illegible]

[illegible]

[illegible]

詞花賀　清原元輔

松ばのいそのもれみるあしぶねの
あらぐさ風にしをれぬるかな

後撰正義云倭歌とは唐とはあり
さらふるおきをよりて陸路より水
をとりて海へ出るを云
和名抄拾類云舸漢語抄云波衣布祢高尾舟
一云戰士可乘之輕舟也
袖中抄巻十云歌中に海人と播磨の
印南野とあり云々哥林良材おほし
續古今雜下に老の後新をすゝうち
出て聖中の清るをすぐして

皇大后宮大夫俊成女

ゆすれぬもの心ぞあらぬ
聖中の清るをすぐして
契沖云此女越後守藤尾と播磨
越後座を信りに通すゝのるなる
べしされど布多部もあり上代
あるいとゝふるゝそのいと記
そをべきまる倭語抄云唯聖中を
あるほるのさまを云ふ歌因哥枕

新古愛　夫人　業平集　伊
くもまでよとゝもあへぬ
も紫
あはぬ
あるもあゝ　まのゝさまゝ
ゝ　ゝ　ゝ　

たづのそまつを忘れず信明集ふ
神代よりかもとふある五月雨のこと
くふ人をつくるよしもがなとあるて歌
宇津保藤原君巻祭使巻ふ
玉葉戀三　女御藤原芳子
紅ふかるまつのたづもうかべども
うれもうせる枝とあるかな
長恨歌云在天願為比翼鳥在地願
為連理枝

万十二　夫雜山よりくべ　古本人丸集
みるとのやまのやまのとそうみ
かし夫
同九　なくちかぬ万
くつもつくつ花くつもつ
十三万

人まろ

同十一　夫雜八渡よりくべ
くもの振うらのうらうらとやき海よりまぢあくるも海も系歌
びと万矢　山城

大伴のかくこ

第三巻出
ひとつきよ海ちへさくひいろの氏海もあそんろふあくまぢくも

人をたづぬ　たづふさ

古雜上貫之集
ろをもひおきつよりもの氏海のたづねくまぢでみくらごてるる
和泉
續後撰云とくべ
みるのの山きるしよりもすくうきずるも海ろ人乃系我たづふん
とう續
雜波河の堀河のあさる芦田鶴のたづもやいん系ぐまのふ
万九　夫雜七濱よりくべ
とまつ海ゆるうるもあり
ま万　ふ万
せづきくぎもたづるの系氏系きるまー

の名ふあればたづふの浦も武蔵ふ
へきまや

狭衣三
くくくふくるあハ考よかくくくを
あまのかるそふなのうとをくとも

同上　同雜西号よりくべ
まれよ海ふるるくくとこ
ぬづちーきるるをくくとを万夫
海布ヨタ
ひぶりあのうくをくるのまあねあきつまを
夫
海布ヨタ
ぬくーき武
本ノマ
まつ人のくくくくたづ時ハなくくーれすとくまる
芽ヨタ
年ふ系でかくくもあくくるる系もある柳のをつくくーき武
拾窓岡　夫雜十屋発　人丸集
なるハ女の芦ふくくやふすたまでおのづ事くくそ
宗ヨタ　の万
ときめづくまれ
しき夫
山ふくくさハまくくる山萱もて生ふる衣せめづくーー
きの今工
形系
五品藤原宇合朝臣
梅の條再出　ら万
たづ
夫鈴二歌よりくべ
かくくふあれ山の芦ふくくくく

これはそつけのをくしふくれ
ぬけてそのちふ髪をあらきき
若菜上に
さしあぐるをるまつこふをみ
るのをぐしぞかきさびまくる
けうもかきさびるけるまで髪を
もせたるあるべし

みさごゐる荒磯波よ袖ぬれて誰ためひろふいけるうひども
多ふれど色もかはらぬたちの葉はをばきそ増る松たのそるる
とすれどとたのそ物なまふとも かたるひとうさぐふきみ

このさた女郎

万葉九見菟原處女墓歌
白檀弓取負而入水火爾毛將入
跡立向云云
書紀敏達紀云足食足兵以使民不
憚水火同恤國難
孟子梁惠王下云以万乘之國伐万
乘之國簞食壺漿以迎王師豈有他
哉避水火也

我命あくんぐうハるすれめやいや日をとまハおもひまをくれ
おべのやたとき 万葉七平と まべー

万四笠女郎 くミの條重出
わの方まをつ方ぎのぞせあくまのの事思ひそこあふ火ともあくたくに
ぬ方
同安倍女郎
多ぶせるハまの形思ひそこあふ火ともあくたくに
古憲よくへ べ 篠六重出
いまのくふとうびまのをさぐのの衣ようまをれをもたのむる

人丸

万一 拾憲五 夫雜七匹 家
いひしいさぶ物ハおもふじ
かまのくに万拾家
たぐ 拾夫家
ぞ万拾家
万一 拾憲五 夫雜七匹 家
ひぐ人のうつまくあのたぐひくみちに
たぐ万拾家夫

万葉十二
不想乎想常云者真鳥住卯名手乃
杜之神思將御知
みちさの山 仙覚抄 藻塩草
筑前くあう八雲抄 勅撰名所抄
ふ大和くあう未詳
書紀神代紀云伊弉諾尊既還乃追
悔而曰吾前到於不須也凶目汚穢
之處故當滌去吾身之濁穢則往至
筑紫日向小戸橘之檍原而被除焉
ふちひくまあくねどあくく
けがれをそそひ洗ひすぎめあれ
あげろ

同上 人丸集
ちくまある神のたくもる命あくば誰落とこのふられハおもちん
て方 ちくたがあおふられあくあくお人
同
おくくふ中ハすぐまずみあさ川たゆてふことをあくたくあゆそ
と方 摂津
第一巻出
霧ヲカヌ
秋とそやふハうぎりも立めくん思ひよあくぬあのあくたくに
万上 京人丸集
大ぶねのさたをもへるもの方 ある事の古
ぬ方 ぬ方
ちくるとそもふれハきくぐまの
ぬ方

ちこのふ

同岡大伴百代 夫雜四野よくへべ
おもぬを思ふといそぐおほのあるみうきの山の神
かう万夫イ ぞちかーくん夫
ぞ方
ぞ方
ぞ方

貫之集

[illegible]

同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

靈異記巻一訓釋云家室伊戸乃止
之又巻二云家刀自などあり〻
伊勢物語ハ〻とうじとあそ中
ゝ者仮ハ〻とうじとひしらむ
やそあるゝ目録ハ家童子の字
をあてゝるてゝハおのつゝきるすゑ
ゝ仮名かゝゝ〻ゝ〻あれハ改る事
なり

契沖云いぶ物をゝ洞ゝ丸恭紀
云壓乞戸女其蘭一壓乞此云異拔ゝ
桃草紙云月をゝゝゝゝの條ゝ又
木のもとにゝもてゝれゝよゝき木
きゝてゝいでゝあどゝふゝ云〻

伊勢物語
さゝゝゝゝゝゝ衣ゝゝゝきゝゝゝひゝゝゝ
こひゝゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
搖蛛のゝ袖中抄奥義抄なゝゝゝ
ゝゝゝゝ延喜主計式云山城國調廣
席二百八十枚狹席五百九十枚云々

あれ幸ゝを男ふ

万二身人部王　夫雑七濱
大とものゝの濱ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

寛 新万
あさ緑よ糸ふ引ぬ心やれ捨てゆくぬ人をうらとく

ゆげの皇子

万二 古本後撰集
あま乙女とまる泊りけらしたひよ物思ひやさぬ人のみ夢に

同十二 不二
ひのさ緑よ糸ふ引ぬかけろふのほのうすみえていすゝ子あ

同十三
ふくつ糸き、恋をしたれば君のあび三まよゆふべくるぐ、ハ引ぬ

かさの女郎

同四 夫雑六河
恋すなそ人ハ志よ志るみあきこの下よ糸やく月日志とに

摂津

思ひこゞふ

不詳の女郎

五 袖
あづさ弓むらぬ山よこの糸ゆめどのちはこゝをまゝらちぬこのも

袖
ひのゞ人のをこゞりさきのあやふさようけひくこのくもみ武

あゞ人ハトゝづまひ岩あれやゆゝといへどたのまれざりて

書紀齊明紀云六年九月百濟遣達率沙弥覚從等来奏曰各營一所謀聚散卒云云

加茂保憲女集

をこづさをゝかゝまることをゝ

けづり先をたゝば云〻

和名抄漁釣具云蒋勦切釣云泛子漢語抄云宇久

新勅撰戀四
あづさ弓ひきのべるあのうそのつ
下同

古戀一
いせの海よ釣するあまのうみあれやゝひくつをさゞめうまつる

同大哥所
陸奥
もゝくゝ
ひのせゞきバくゝ
いあまのいあまあくゝ
あゞこの月ざらう

世の中を思ひさゞあるほどざらう我こゝちすまをたゝあん

うゝふも
たゝ
ばらあ
この中をたまうき物とおもを知らん

後戀三 伊勢集
河ハせるあるうそるてふ世の中ハ見うゝてこそ志るべうりけき

ある伊
あまう川
後

万十一 夫雑十五友人九 人九集
とゝき夜のゆひこゞれてこゝまでもなゞ仏の友とそふ人もなし

ど夫
友
万

同
思ひ出ぬ志ゝるまでといふるゝ仏のうちを今志めやも

むすびて一万
ひゝうをいまゝあ万

後撰十六 拾遺三 新撰
ゝ夏よゆふべよ人もおもひそぎ八まを待て門さゝりてへ

後撰戀六
やへむぐゝさて門を今さゝに
行よくゝあけてまちまん

新古憲 是則
そのゑや伏屋よりまるたきものゝとてやけどあたるぬる共
万七 玉葉 たゝ人 大雑二
さゞなみのあゝ今ゝ山よりゝみてハるぞふるてふゝ雲天 まこゝろ方
圓大伴坂上郎女 人もとゝむの俤重出
まひゝてあひるるものを月ゝあれハ袖ふるゝ人恋ハ
夏作や条のさゝふいなび形のいゝ〳〵るハ夏よりさゝ
万品家持 袖
ぬぎ玉のよむべ〳〵なるまひさハ手ハ袖をこのへまゝ手ゝるのなゞてを
入ひもさゝてきつまゝ夏衣こゝくいひてもかへ〳〵つるゝ形
夕ぎりよ衣ハぬゝてゝさまゝゝ旅ぬきるゝもあゝめるゝやゝ
君ゝのため出てこゝざゝし月ゝぶゝもいゝでハたゝよかへるまつこゝし
つきゝまゝハ月ぬゝぶゝもゝそまつときみゝるをゝへを物まゝぶゝりる
万三 大伴百代
ぬゝぶゝるのゝそのゝゝ梅をゝゝるゝゝてをゝで来まゝゝの思ひ〳〵物を
みゝ形の月ゝ出ゝよあゝるまのをよひのやゝをゝまゝぶゝたゝゝみそ

契冲云志ゝ〳〵ハあゝまゝゝハ志ゝゝ〳〵
待てあれとゝゝまゝ
毛詩齊風鷄鳴篇云東方明矣朝既
昌矣非東方則明月出之光
催馬樂
こまさゝや条のさゝふさゝ〳〵に
わゝのゝゝたゝゝ〳〵ゝゝるゝゝ代まゝゝ
伊勢集
みまさゝやゝゝめゝゝさゝふさゝ〳〵ふ
むゝ〳〵ゝゝゝゝ志ゝ〳〵きやゝゝゝ

古今戀五　紀友則
ゝゝもゝゝゝゝ

文選古詩云行々重行々与君生別
離相去万里餘云
袖中抄巻廿云うたゝねおきとふ詞
おきとふ詞うとふ文字ふ詞の
助と云〳〵

古本集
梅ゝ花咲てちるあとゝぬらも今まで妹が出くあひこぬ

第巳出
あきの野ゝさゝ分ゝ行の袖ゝもあつゝぬるまでひちまさりける

ひちゆき

後慈三忠参
伊勢の海ゝ忠参集
白波のこのへる時ゝ舟出せばあくゝん

人まろ

第四巳出
たきゝ川ゝ岩ゝ根ゝ人もあひゝづつまなゝがちふ

ひくま孫

百王 夫雑七姉 古本集
ぬけゝ出ゝ万夫
あゝぬ妹ゝ恋ゝ久ゝ
同四 湯原王
うたゝねゝ
天の万古イ
ゝ恋ゝ
ゝ恋ゝ古
ゝ恋ゝ
ゝ恋ゝ
ゝ恋ゝ

後撰戀五　よみ人しらず

[illegible]

古意四　[illegible]

[illegible]

後冬大江千里

[illegible]

[illegible]

古誹諧　猿丸集　やうん古表

[illegible]

夫雜　光孝馬順

[illegible]

万十一　續後撰戀一　人丸　新撰　[illegible]人丸集

[illegible]

河　桐壺　そ方續　おひてるあの續古本　播磨

[illegible]

松葉集　[illegible]　[illegible]の左大臣

[illegible]

古今六帖

[illegible]

袖中抄巻廿　[illegible]

[illegible]

[illegible]

是則集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

契沖の説ハ万葉ハ意名とあれど十名の義ニ千名五百名あるこの歌ありといはれしもいと俗名なるべしいかゞ

古今春下　そせい

いざさくら木の山べまでもあんくれあぞあげのいろはよりげうち

古誹諧興風　家

なぶのその名ゆたかにたてのをうんきてまぐふハ系紀くりの名

万十

あしぐべ神もあしくこそ（ま万）ものをーくやーとうるる人のみくうもあくふ（きくが万）

同四家持

今よりハ名のをーくるも系ハ妹よりてハちんよたつとも

續後拾憲二人丸

おあぐ名をたがをたにあぐ身をびきてをあれめらーぶーまで

なの知名

古憲三　後憲三おあつぶね　新撰　後六　古本伊勢集

人をいざ系ハあき名のをーくれば寄るもーーぶーとをいちん（や京）

たーくふあぐのおく乗もあるものをあき名をとくも信ーー法武

万十

いくぞくもふぬ名ゆ（ん古）ぞくこぐふものちくくー添もとぐろ

万十　大雑五池人丸　古本集の古きぬ夫

まのーー池よて蓮を筆よぬずーて人のこ身ゆ城たつぐきもの城（ゆ方古）

摂津

なき名くいちくふ命船せるもあくじ行のうーてもみくくてきけ

元方

新勅撰戀五　よく人ーーぐ

ふくーぐぞて花のふるやのひさーまへ

あくことあーーのうまでおひぬる

拙草紙云ふくまーーまハちふる

あさるやあくんとちふもちし

後雑三伊勢　家　古本人丸集

ふく風のドよちうもあくふさも立やとち記系ハき名系

大系よりうなの種もまうなくいづくのなもふさくら生けん

（ちり後）

（若菜ヲカス）

（水葱ヲカタ）

古憲三みそるのありもん　新撰

ひやあくてまぐ知なき名のたくく川ちくでやもん物あくなくん

新

なき名くふ系ハあぐきなー花もみぐたくあー草をれてらぐーむ

（もイ）

後雑三貫之　家

かぐくもちくくもちまんあき名をとて後ちなーーるのうひやあくくん

（も家）

紀記

おきんるかもつく路よ系ハいあーー妹ハこちまぐよのさとぐーに

（る記）（ちド紀記）（も紀）

万四笠朝臣金村

ひのまちのくふ系ハくくーー系妹ふふくもくくくくくーーもの城

（ふこーーくり方）（さ方）

同人丸

いまーくまくくくんくもつぐくくいもくくいくいくくくくくんん

家持

万葉四

葉根蔓今為妹乎夢見而情内二戀　大伴家持

渡鴨

思ひくくよ妹ゆるるまひとを寝ようくて仏のうちにあるこのち絵

（もえくぞもる方）

万葉十一
吾背子之振放見乍将歎清月夜雨
雲莫田名引

古今雑下
風ふけばおきつしら波たつたやま
よはにやきみがひとりこゆらん

万四 佐伯東人
ますらをの
ちはやびとの
ことのまに
まに
ちはやぶる
かみをいさめて
ことあげせぬ
ことつぬ

万七
妹ゞあり我袖ふらん
奈良の京人集
ふるさとの
妹とあらめや
まちがたみ
たまびくはなぐの
ふるさとの
第二巻出
たゝちなの
ゆくへのかたの
まどまでに
いでさくもあるか
妹とあらすて

人まろ

万十一 古本集
もゝしきの
大宮人は
いまもかも
なにしかゝ
ものを思ふ
妹とあらすて
なぐさもる
かも

同 長皇 夫雑
つゝみの
沖の
ゐ波
たつ
田ゐ
いつ
ゐ
ゐ
ゐ

吐くゝ万葉めきて万葉ゝゝゝ
松葉集ゆゝ作者を坂上郎女とあり
面影ゆいづゝぞや夫木ゆゝ因幡に
松葉ゆゝ長門とあり

五四
夫雜二山坂上郎女
ゆくゝとゝろ面影ゆのさらさ面よ手ゆのくこひてゆあゝ新ゝゝ

おかべ人

万十一 拾意三人抄 家を拾家
手ゆかるゝみよゝゝ三ゝゝれべゆ手ゆ花ゝおもひゝゝ枯ゝゆ
同四大伴坂上郎女
ゆゝゝゝ

契沖云あづまやきめくきる衣
あれば民をあづかいふことを
古今雑上　よみ人しらず
いまくへのあづまのそでをいやきも
ときもさうかはりしまあり　家

万四安倍朝臣蟲麿　夫雑十七賤夫
あづまなまり　あるぬ命　みて　ぶて　ぶて　ぶ

万葉十六左注云寄物俗云可遊仙窟云記念」

拾遺哀傷　よゝ人〳〵ゞ

いろふせんものゝぶしるもつゝらびぬ
うきゝとみそてぶよふれば

きゝて紙みの大臣とある八列近院右大臣のゆゝ此作者の名今ハとてのゝこのまゝまゝくをふとうつゝあやすれるゝ

新勅撰雑四　前参議教長

瑞ゝ寺の吹上の浜のすゝ風ゝ
吹ゝもとゝぬ宮ぞつまゝる

たのむるの條已出

我ゝゝ人ゝ者のゝ
ゝ

後雑二ゝ日大弱に母のめのと

ゝ
ゝ

ゝ

古憲四近院右大臣

いまゝゝ

同　舟尼　家

ゝ

同　よゝ人〳〵ゞ

あふまぢよゝゝ

同雑上よゝ人〳〵ゞ　伊

かぎゝ

後春中よゝ人〳〵ゞ　伊勢集

櫻花ゝ

同　ゝ家

ゝ

ゝ

ゝ

浦嶋子傳云當雄略天皇廿二年丹後國水江浦嶋子獨乘船釣釣鼇亀云云須臾向蓬萊山與神女共入玉房云云嶋子曰願吾暫歸舊里云云神女宜然哉與玉匣裹以五綵繦云云誡嶋子曰子若欲見再逢之期莫開玉匣之繦嶋子乘船忽以至故郷尋値七世之孫云云至不堪披玉匣見蔑紫煙昇天無其賜嶋子忽然頂天山之雪乘合浦之霜矣

万葉十一

月之有者哪覧辨裳不知而寝吾來乎人見兼鴨

名を惜むの條已出

玉匣あけてくやしき白雲を箱にのこして立ちぬるかな

夫雑七浦

みなれ江の浦のゆふなぎ玉くしげあけざるまくを何かあはまし

夫

みほひろと人よりもまづ見るものは海のそこなる海人の子

伊勢集

水の江ゆ見るとはなしに玉くしげ開くべきかは海人の子

玉くしげ

玉くしげあけてくやしき白雲の箱にのこして立ちぬるかな

万三

あきつ鳥の袖ふる妹を玉くしげおくよりまさに思ひそめてき

古憑三

玉匣あけばくやしき白雲の箱にのこして立ちぬるかな

玉枝家

玉くしげ開くべきかは海人の子の海の底なる玉のかずかは

伊勢

玉くしげ

玉くしげ

玉くしげ

家

玉くしげ開くべきかは海人の子の海の底なる玉のかずかは

古今戀一

よみ人しらず

玉匣あけまくをしみ明けぬとは人にはいはじ我のみぞ知る

下同

夫春二雪家

玉くしげ

玉くしげ

玉くしげ

万八 あまけるうき田のほづちつくるうづゝそつゝきつゞせこゞと

同 ほぎもみゞわざとつくれる秋の田もさつほのうづゝくれどあぬこも

家持

かゝ

同上 拾遺三 古本人丸集 ぬばたまの妹が髪敷き山びもやあおきこ床よあびきてぬゝん

同二 古本人丸集 みつゝもつゝちぶまうんおあびきうづ黒髪よ寝もの奥くまでオ

同上 ぬばたまの黒のゝ〜きてもきも敷をよ枕のよ妹まつゝんう

人まろ

万七 ぬばたまのあつゝもの重複也 流つひよるもぶまうんうちあびきあ黒髪よ寝もふるまゝを

万七 古本人丸集 おもよゝ許つゝうんうもぬばたまの黒のゝうゝをあびきてもゝん

万 古 あゝ万 古

万八 祈ゝれの敷けづゝもあぶれバ立ゝ〜き敷をゝつゝ寝る〜敷

五之四十

万葉十二

待君常庭耳居者打靡吾黒髪爾霜曽置爾家類

拾遺哀傷 人丸

ひきもすが祈られ敷を敷浮は

いけのみもとゝるどうかゝき

黒髪の白くなるまで敷の上にうちふすあしびきの山びこのこゑ

人まろ

右のうゝ後撰哀もよみ人まろ

ぎとありされど躬恒集にも入りそゝ古ちまゝつゝあるよゝ

ふとおもひたづねて古集へいきくゝ

くもをるべうぶまとあさ敷のう

く新拾遺ふうゝとあるなまく

ちまうゝれたるゝ敷けー

第二出 黒敷の白くなるまで敷あれバまづ知ちをあいれとぞゝる

よひの言の條已出 いでゝいまぞ妹らいんうもぬ妙の黒ゝきてもきうの敷

万七 續古遺 古本人丸集 ぬばたまの黒のゝうゝをひきめしみぶまてうゝ言ゝるゝ

新拾遺三 あさ敷のゝけづまぶいぶゝ敷れつゝ黒敷のゝうみぬちゝ敷

万二三 万沙弥 古本人丸集 たゝちあぶめれゝぬるねぞ敷じ妹が髪ゝのひゝあよ敷まつゝんう

同上 拾遺八 家 敷祈ゝれゝ敷けづゝじうゝき人のゝ敷ふまてゝまゝ

人まろ

同二 合人 埴手 あげきつゝまゝゝもうけを上ふれ社ふもゝ西ひのつきてぬまゝれ

第一已出 黒ゝぶバ山やへ山いぶ敷ゝ敷ゝぶうゝ西ひよ敷まバおくゝも

躬恒

毛詩衛風伯兮篇云自伯之東首如飛蓬豈無膏沐誰適爲容

万葉三　石川少郎
然之海人者軍布刈塩焼無暇髪梳之少掻取毛不見久爾
袖中抄巻十七云とがせこがくしはあらもんに此うた六帖よりこの哥に入りこれくはくーろとふことをもまきてひくゝ掻とゝのんまるれこ
古本人丸集
あらつまこたまつげ掻のあるけれどなりそそ思がれどあるぬるも

万九播磨堺子
るゝとくはあでをのちさうゝおよあるつげの小掻もれんと思らば
めくーの俗已出
とどあるまゞ玉匣あるあでこいぶりーくゝ妹よまぎれば
新古雑中葉平　伊
甘アのゑあでの掻焼いまるゝつげのもぐーもさゝびきゝるん
万九振田高宿祢
つとぜさゝ掻はあゝおんひゝるのおくゝまゝまてゝ系やるまーを

人麿

同土
名付日あふつげぐーあるゝもいのゝめりぬれど方
後雑一大江王淵女
なるゝあゝくゝ伊のゝもあるぬ後みどくーふゝきゝのまゝーどうゝ後

たま

万三
一日まゝちへゝきあゝるゝきゝふ方ゝゝゝ

者云云

文選石崇王明君辭云昔為匣中玉
今為糞上英朝華不足歡甘與秋草
并

契沖云玉の緒ハ玉を貫く緒をふ
ありおわくこぶるとふえん緒を用ふ
まき命ちぶ靈の緒ぞ

人丸

万葉 宇
ぬばたまの黒髪しらなみ打なびき
同
ぬばたまの黒髪しらなみ打なびき
同四湯原王
ぬばたまの黒髪しらなみ打なびき
同七 夫雜八磯
いそのうら風本さらぬ妹がたもと
同十
玉の緒ばかりあひぬるかぎりは
同
たまのをばかりあひぬるかぎりは
玉の緒をいそぎ引こそ

ひとまろ

万葉 ら字
ぬばたまの黒髪しらなみ打なびき
ふあきさるつる小字
同
ぬばたまの黒髪しらなみ打なびき
八方
ぬばたまの黒髪しらなみ打なびき
き万夫
ぬばたまの黒髪しらなみ打なびき
あがたもと万夫
同十
玉の緒ばかりあひぬるかぎりは
あり万
たまのをばかりあひぬるかぎりは
玉の緒をいそぎ引こそ

奚丸

万葉十一
生緒爾念者苦玉緒乃絶天乱名知
者知友
同十四
佐奴良久波多麻乃緒婆可里古布
良久波布自能多可祢乃奈流佐波
能其登

後撰戀二
つゝむき
玉のをの絶てみだれていのちとて
とゝ月あぐさちひもするゝ

拾遺戀一
よゝゝゝ
ぬきみだるゝ玉のをとまるやと
下同

万葉十二
皆人之笠爾縫云有間皇在而後爾
毛相等曽念
万葉ハ島意とまて シマコロとよめる
ようなゝ誤字をもくもうはう島ハ
寫の誤字ゝて ウツシコロ有るよ
宣長すぐふとう

玉の緒をいそぎ引こそ

たきの

万葉十一
生緒爾念者苦玉緒乃絶天乱名知
者知友
同十四
佐奴良久波多麻乃緒婆可里古布
良久波布自能多可祢乃奈流佐波
能其登

後撰戀二
つゝむき
玉のをの絶てみだれていのちとて
とゝ月あぐさちひもするゝ

拾遺戀一
よゝゝゝ
ぬきみだるゝ玉のをとまるやと
下同

万葉十二
皆人之笠爾縫云有間皇在而後爾
毛相等曽念
万葉ハ島意とまて シマコロとよめる
ようなゝ誤字をもくもうはう島ハ
寫の誤字ゝて ウツシコロ有るよ
宣長すぐふとう

新勅戀三 よゝゝゝ
玉の緒ばかりあひぬるかぎりは
古戀三 よゝゝゝ
玉の緒をいそぎ引こそ

たきの

古戀三 續後撰戀三 寛 新方 貫之集 家
玉の緒ばかりあひぬるかぎりは
きゝぬべきいのちもがなと 新方
古戀一 よゝゝゝ 是則集
玉の緒をいそぎ引こそ

万四 伊
玉の緒ばかりあひぬるかぎりは
同十
たまの緒をいそぎ引こそ
古戀一 よゝゝゝ
玉の緒をいそぎ引こそ

紀女郎

き伊
たまの緒ばかりあひぬるかぎりは
ん伊 ん方
たまの緒をいそぎ引こそ
古戀一 よゝゝゝ 伊
玉の緒をいそぎ引こそ

万十一 続後拾壱人丸 古本人丸集
いきの浦よ玉の枝はてこぐふね
同 古本人丸集
玉の枝はくもをよせつゝ
あさぎり
続後恋二賈之 家
あハぢしまとを枝よりぬく玉ハのそで
万二
玉の枝のはぎこぐ
古恋三 家
たまぎはきき
同詠
思ひ
おもハぎ
玉葉
夫雑一雲
おもひ

友名

古事記上巻云天宇受賣命手次繫天香山之天之日影而云云
太神宮儀式帳云多須岐

拾遺秋
白玉のおくつゆかすする女郎花
あるゝ

坂上の郎女

万十一 新拾壱人丸
まそ鏡
妹を

同四
ひとり

万十一
ひとり

万九 家持
かく

後離別 大父
ほのか

同
下野

夫雑二山
玉

拾春 亭 是則集
玉

万葉三
橘平屋前
験
大伴阪上郎女
植生立而居而後雖悔
験将有八方

新勅撰戀一
権大納言公實
おもひ

後撰戀一
そこ

同四
ひとり

万十一
ひとり

万九 家持
かく

後離別 大父
ほのか

同
下野

夫雑二山
玉

拾春 亭 是則集
玉

古今戀四　よし人まろ

かごとこそ〻〻あさあれ是を〻〻ば
こゝろ〻〻時もあ〻年一まち我

万十一　猿九集　古本人九集
[illegible]
後戀四　よし人まろ　伊勢集
[illegible]
あふ伊　うさみ後

まくら

古戀一　よし人まろ　新撰
我こゝろと人をあやめ　そ古新

同三　貞文
[illegible]

万四
[illegible]の枕

同　くそだく万　ひけあ万　ぬ万
[illegible]

古戀一　よし人まろ　新撰
[illegible]枕さらめん　ふ古

万四　大伴坂上郎女　夫雜十四玉
たまぬ[illegible]

人麿

同十　續古戀四　古本人九集
妹を[illegible]ふ万　枕とまくて袖さへぬ[illegible]

夫雜十四　よし人まろ　河須ア
[illegible]

第四巳出
枕[illegible]

万十一　古本人九集
[illegible]

万十一　夫雜十四入九　こうんひ万　ゆ万
[illegible]

古本入九集　あ古
[illegible]

万十一　夫雜十四入九　こうんひ万　ゆ万
[illegible]

たまくら

和名抄木類本草云厚朴一名厚皮　楊氏漢語抄云厚朴保々加之波乃木

又云兼名苑注云黃楊豆和名色黃白材堅者也

文選王褒聖主得賢臣頌云蟋蟀俟秋吟蜉蝣出以陰

紅のやまぶの衣あるまでいうでるまくくまのんこぞおもふ

五十 古本人丸集

きるもきこえもすゑ方ゑ方ゑ方

万葉十二
大王之塩焼海部乃藤衣穢者雖為
弥布将見」

拾遺戀二　　貫之

あひそめて　おぐさなぬくころろ形
いくくの歩　ぬそう　衣のさむべき」

和名抄蠶絲具唐韵云蟻和名波万毗桑
蠶即桑蟲也

第二帖

いとそもゆるぬるくるのあがはもり
あまさふくぎもおをあくふ

後拾遺戀四　　清原元輔

なぐさもる　なるあて　おもすぐ
のくをてろまうらぐめをける

万土　風憲二　夫雑上衣　かくあるよやほのえあさぬ　あるふすがどまめ　めづらしみ
えぐらふ浮　ものあやふかく　袖をひちあ　えぐさあぐ　我
古衣　夫雑十衣　うつてつる人ふ　秋風　ふきたつ　きよ　もの思ふ　なを
同八坂上大蟻　秋風の　こきぬ　ぬ　時ぐかく　ふぐ　物
同十四　同　口　奥　ぬくだなのふひくふま　衣あねどるぐくみ　芝あやふきま　我
小町

古憲二　家　いとめて　きぬ　ぬぐ　のよ　衣をこへて　おきま
なぐさもと　浦　ひろん　衣　こそ　の　袖ひちて

万土　風憲二　夫雑上衣　かくあるよやほのえあさぬ　あるふすがどまめ　めづらしみ
えぐらふ浮　ものあやふかく　袖をひちあ　えぐさあぐ　我
古衣　夫雑十衣　うつてつる人ふ　秋風　ふきたつ　きよ　もの思ふ　なを
同八坂上大蟻　秋風の　こきぬ　ぬ　時ぐかく　ふぐ　物
同十四　同　口　奥　ぬくだなのふひくふま　衣あねどるぐくみ　芝あやふきま　我
小町

古憲二　家　いとめて　きぬ　ぬぐ　のよ　衣をこへて　おきま
なぐさもと　浦　ひろん　衣　こそ　の　袖ひちて

大和物語
うさまくちもちひふ　ふ　衣
たもとやさよふをきて

古憲　後六　いつもの　なりぬ　衣　おもひ　袖　ぬ　ぬぐ
おもへ　え

同憲四　家　ぬ　ぬ　衣　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
同雑上　新撰　新朗　たもと　たて　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
白　の　衣　の　袖　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

古憲二　家　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
人まろ

伊勢物語
風ふけば　ふはす　ぬ　ぬ
ぬぐこ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

万土　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
拾憲二　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
万土　夫雑上　袂麻　又十八　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
あぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

和名抄染色具唐韵云橡御名部波美都橡
實也契冲云つるぶみハくぬぎの実
なり借少納言ふおそろしきまの
ゆるぶミの実といふり俗ふどぐり
とふるの久まそそめるる

第一巳出
なくのもれるたるゆよたなそれてらを待るくすゝ
万七
つるぶみよきあきるくへこそなとしひゝ時ときまんしくを物をらを
同十二
橡のあそせをそれこころもの万
ころゝのうるせバ涙ゝ
ゆ
ゆ

恋やき衣

古意五
いせの海士をそれをそれあゝみぎるよあれやいまぐ
万十一 續古意
をそれあまの恋ゝ
夫雜七澳 古來人名集
恋前
伊勢の海士の恋ゝ
新古意三齊宮女御家
なるとゝくハうきせなれぐやきるのなるきやきれまぐれ
後意三
いせの海
伊勢集
恋後
恋後

夏 衣

万六山部赤人
伊勢の海士の恋ゝ
恋後

夏 衣

万十 新古意五九 家 赤人集
こるるのの雪かぐろもきるもをめよ
ぬるを家 ちぐるぐるの新家 ひるくきも万 ひるくも赤
なつ衣うすきんとき
拾意三
るぐたのきるひくあるも拾
家
ナんの衣きぐあるもて部ならるなくもいまぐやるぐ
ゆるぐあるうすきんの
秋の衣
第一巳出
ぐるのまるもをいくうあぐしきれのをん風
あき風をとをみくあぐ
後撰
秋の月の
寛 新万 一字ハ古帝將善朝臣
月後
万葉七
久堅之雨雨波不著乎恠毛吾袖者
干時無香
伊勢物語
風あけばるるは波ゝいとあゆや
ゆるぐこころもをハかるくきるた
拾遺戀一
みあるるあまくあるるる
下同
新古今戀五 同
ゆくハあるぐとすれやゆゆの
下同

波のあやもいろかはれるおりよきて花よりもなほ[illegible]

第二 又ミがをの修色出 つぎもみぢ衣ありせばあれこのぎのうへにきるべき[illegible]

衣うら

拾遺貫之 家 風ふきてうらかへすなり[illegible]

新勅撰下貫之 家朝 たちかへりうらかへすきくたかをふるうらのなかの[illegible]

新勅撰下貫之 家朝 [illegible]

新古 羇旅 家 [illegible]

同秋下 家 [illegible]

古今秋上 よしのたつた

おちてさわぐ衣うらがへるくれなゐにたぎりの下葉もうつろひにけり

拾家 ハセまさう

[illegible]

素性

[illegible]

新勅撰下貫之 家朝 [illegible]

ホけり新 [illegible]

る新家 [illegible]

松ふぐ

[illegible]

ホ新家 [illegible]

ホ新家 [illegible]

五七四十八

万葉十八 波里夫久路已礼波多婆利奴須理 夫久路伊麻波衣天之可於吉奈佐 備勢牟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]」

[illegible] 巻五 [illegible]

契沖云 新[illegible]寺[illegible]」 書紀天智紀云三年於對馬壹岐嶋筑紫國等置防與烽又於筑紫築大堤時水名曰水城 云云 [illegible]

新撰万葉 女倍菜 秋在名 緒哉立沼濕置白露 緒潤衣冊服手 [illegible]

万十一 [illegible] 神毛惡為縱咲八師世副君之惡有莫君爾

後撰恋五 中将内侍

[illegible] 人のきぬ [illegible] 」

大和物語

[illegible] 衣 [illegible]

第三巳出

[illegible]

万七 拾雑上 人麻呂集 夫雑上衣

[illegible]

同 夫雑上衣 拾

[illegible]

同藤原朝

[illegible]

かたごころ

乙 麿卿

同九 夫雑上衣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふくま

万四京鐵藤原夫人
あつふしてよはおごやがとこ袖ぐれども妹こ絲八さぶへ寝ぬ

同十四　夫雜十二三蔭
ふるさとたつはなさてこふくまこまひくまあまひくまあまてこ寝ぬ

同　同冬
きへ人のうまぐ〜ぶすまにうさわらひ妻まの妹がもどうて

紅

同十　新勅撰　古今集
こておもいるてもそおもふ紅の伊ろも染ひ引ふ〜きぐさ

同　古今集
山ふるる時うれ絲色紅赤ものすこ色みる川

鎌倉おくの條已出
人めもるるうまふ〜系ともたもく紅みくまの袖ぬ

同十二　風雅
いろ色〜あぬるる紅よひぐるる川のせよるものすそぬ〜

万十二
そきも〜あぬるる紅よひぐるる川のせよるものすそぬ〜

人まろ

源氏真木柱巻云あるもたまひ引いふ
〜ぬをこ染げるふることあれど
きたくぐさふ成てあんをめさせ
浮いけるこ〜

万葉十二
唐様花色之移安情有者年守曽寸
經事者不絶而

契冲云毛詩召南何彼穠矣篇云何
彼穠矣唐棣之華云云又云何彼穠
矣華如桃李又論語子罕篇云唐棣
之華偏其反集註云唐棣郁李也
書紀天武紀云十四年秋七月初定
明位已下進位已上朝服淨位已上
並著朱華冠華此云花冠　かく書紀ふも

万葉十二
淡海之海邊多渡人知奥浪君乎置
者知人毛無」
奥義抄下云人ふ君ふ人ふ下紅
ふこふこふこふこのあるこふこされば
ふもふふもふふふふあふまぎきもふれ
もふぐふるふやあふんやふてもた
ふぐふるとふあるなり云」
契冲云入紅ハ裳束ふ雄紅紅ハ
めひもにちひもをさ〜入てもむすび入
紅とふふふふふれ金てさふ結あれば
同一条結んとふあるこ」
又云ふふハひもハ二ハあるものあれば
ふまぐふる時ときそいづれの方ふやく
とふふあるべ〜」
今按ふるふ出ぐこハをとふ冠詞あれ
どもハをとりとけるうあればやぐて

万葉十二
なるまぜんまくるのみるめをもひろんを奥浪立屋をかづくまふて

ひも

古意　新撰　古今信明集
思ふともふふもあふん物ふれやゆふてもたゆ〜こふるしくひも

允恭紀御製　續古意　古今集　奥袖
さふふぐる紅ふひもをとつまをけてあまふ絲ぐふ呂ふ紅ぬ〜

古意　宗千集
下ひもをゆふまうみてうまうつまびるるぐこぐぬふくのまるる西

古意　宗千集
ふ〜ふるすふ紅のおふ〜ふふいぐあすひてん

ぬぐふるふふふ紅ふまふ〜ふ系たまふひふるるふもふも

人丸

おく山のまげのふふてまふふふも妹ぐ結ぐ紅をふこのふふや
ふ紅ハふみてやつみぬ玉緒のまをふも考ぬ命る俺まぐ
なそ人のこれてつまふまるき下紅紅とけばゆふふといひて〜まのな

[illegible]

第一巻出
[illegible]

後撰三在原元方 伊
[illegible]

同
[illegible]

同
[illegible]

[illegible]

[illegible]

かごといたんまうひさち常といへ
るなり云〻
和名抄腰帯具揚氏漢語抄云鈴具
此間云腰帯及鞍具以銅屬革也」
同書香名類云葉爐比度

拾遺雜賀　天暦御製

さまをけてなほ祈がうくあるみちり
ちげのいのし
まるふあふべきへやまつ〻ふ年

後撰秋上　よみ人しらず

ちぎりなんきてのまちふふへてこん
まのうちうふまるもの

方十二
みづがきの久〻きとき也万
ひとうまと　ときわ
新拾意四三條右大臣の女大
たきもの〻かぐりの昌ふ此ちうはいうでるよ志〻と舞
夫雜中よ入〻しべ　河真木柱　新大
くめ紀物のまの〻　河
同
さのりよひうやう倍〻たきあ〻それも見ひるちんてしろ
ふ
ふ〻あいふふぶるたまをひとりしもおきあるべとおもほゆるか
さとの〻ふ
續後意三入〻しべ亭　代意二
ちのめおうのたのめおうもんきてふきびるも留る命あうやや
おうん續
きんたて〻ふようも惜るこのきを隠あ〻べたなのふこのきん
おまろ荘
古意四典侍藤原因香朝臣
たのもこ〻てこの柔ふふへ〻てんうびこふるれば垂ふなし
朝臣
ふこ〻ふもちめ高山ちまてれなべきろうきよあき

万葉八
事繁里羽「不住者今朝鳴之鴈爾副
而去益物乎」　但馬皇子
拾遺別
ところとちふ志〻きへのふ〻あれや
や〻でのこ〻をひもくわ〻れ
紫平集
ふのかそ祈ひ〻ひるあ〻かふ
あ〻〻も行ふ〻ふまさもの

重蒙抄巻五云ふ〻ふ〻ふ〻ふ
ふいふ武五文字ふまぶ〻ふまふ
かふ〻ふ〻ふ拾ずふ万葉二ふ玉精

安里おき〻ふこのまうるうき世ふふ〻もふもやや〻でふてふ
ふ〻
新撰　新撰
ふの中よ行て得あのうきはたの〻ぬべ〻もふるふ年
たまづきもふふふぬまを祈風の吹ふるごとふ人で言〻た
行ふする法やけ〻ん浮ふるふ〻〻ふのふふみを限ヨカス
人〻ふ見ふふと思ふふをおづふ行たづひ〻ふ行べきものを
後雜二元良親王家
やをいふ〻ふ〻ふ人ふ〻ふぬ〻ふ行ふ〻ふ行ふ
風ふ〻ふ〻ふ風ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ
茶ふ〻ふ〻ふ花やあふふ〻ふ見ふふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ
河紅梅
かひふ〻ふ〻ふ見ひふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ
ひおひもふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ
ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ
ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ〻ふ

の石垣洞とあるをとゞめて玉情をかぎりとこゝろまとあり さんば
さるも玉情のあるゝ所さうとあり
きんをたゞ〳〵玉章とかき情の生を
よくも考へまてこの係る入目られる
るふあるゝ後撰雜二讀人不知
あつれくもうゝもいとゞけうつよ
何るゝあさふけゆるゝあれど

續後拾遺戀四　延喜御製

たまのゝゆくゝるまゝぬ人あれや
ふゝつけはゝんもべくるなた

一代要記云村上天皇諱成明醍醐
第十四皇子天慶七年四月為皇太
子同九年四月即位于大極殿
重之集云三位の大武い敬ふ殿の
大殿のたまもそ子ありかゝときまか
きゝゝそ出ほやけもやされるこゝ
をゝ〳〵きふゝふおゝをゝれて侍る

西雜下　家童

すゝ〳〵まん時まのべくゝで深くゝるゆくゝも考ぬ行きゝゝぶまる

伊勢

家童

くゝのゝ考るゝのゝぶゝゝを思くきゝそふゝ〳〵ゝゝとゝやきゝ

法〳〵ゆき

夫冬二月鳥ゝ家

あゝゝちぐゝ行ゝゝ家ゝゝ〳〵て夫
まゝゝるゝの家

いせ

後春下　家

ゝゝ考ゝ行ゝゝ家ゝゝ考ゝ考ゝ考

もたつ〳〵きこゆるなり」

宇津保楼上巻

さらぬ雲ゐにすめる月つきくまなくあるもあられてかゝるけはひ」

文集新樂府五絃弾詩云秋風拂絃疎韵落第三第四絃冷々」

袖中抄巻十云頭昭云ものゝいとゝ下樋と云琴の腹の中に樋の似まゝ下樋とよめる歟

新勅撰五ものゝ
もつのをれたるをもまつのをれたるとのみ白ひくをもあるが袖やゝ長る

古雜上 世法師 新撰
すゞ古新
あまてひゞきくるかゝ琴くまのをとのてゝ風ぞひきけれ

同物名 安部清行
あるめるはけをもゝふのあるを高きゝぶやあゝまるらん

拾雜上 齋宮女御 古今集 金 朗 世
琴の高ふゝもゝ松風ふくゝいつまのをとゝきゝぶけ春

万七 袖 八雲
ゝゝ琴あげきをれるゝけゝるゝ夏よりゝゝゝゝ春やとのゝ生る
いと袖八 おもか

夫雜四 家
もゝく琴の秋のゝもちつける月新を秋のをこゝゝおゝゝゝ

賞うて

お形ゝ

第四巳出
もゝき琴の秋ゝゝゝゝ

順集云かゝ廿のゝえにひとよあそ
びあるさせ給ひ云〻
童蒙抄巻六云まちくゝふ呉竹と
ひとこゝもろこゝ呉の王といふ
ふより出るゝ云〻
大和物語
ちゝの君にこゝのふきう笛廿の
こちくれこゝろもきあえこゝろく也
伊勢物語
いへだゝふいとねむひとさゝぐれて
ちゝろゝゝゝあぐくこゝろゝ
和名抄琴瑟類云兼名苑注云簫今竹謂高麗用此字除吹處而六孔之笛也
契沖云應神紀十四年十六年葛城襲津彦大将とありて加羅國ふおもむきしるあり かく武將とあれる人あれば此もてる弓ふたゝ

ひとふ〜いとうくゝひけの君あれどもこちくの君ハきうじぞ呉ふ
新勅憲五 人丸
いへだゝこゝふふうく此き笛廿のくゝ君や袖と云ふ人もゝ形
ちまづえ此方來ヲカヌ
笛廿の一くむ形きあるまづふよそこふけこゝも思いざゝ我
夫雜五池 人丸
ふくゝたけの河のつゝみい君くこゝもこちくてふ君ゝこゝれざゝあん
ふき夫 大和
ゆゝ
万十 夫秋六檀
葛城のそつ長吉ゝあきこゝもゝゝじや君ゝてふつけうゝ
たのめ万夫 のけん万 むらん夫
なゝよゝこゝど 古今を呉ゝと
古憲四 人丸
あづさゝゝのゝはけゝ君つひよ呉呉人みちこのちげゝ舞
同雜上 同
棹ゝいこゝの小松たゝ呉ゝの呉代ゝ君てたゝ形をまたきん

きの女郎

此ゝ詞ゝゝゝゝれいさゝ君ゝ
かゝゝ万葉の河ゝ君ゝふゝ呉の
長不来ハ不来来ハ来ん君ゝ
あゝめゝ棹ゝのひきゝゝゝ
すゝゝゝんゝゝこゝゝゝひさゝ
ゝゝゝこゝよゝゝん下句のこゝ
こゝゝゝ八上句のゝゝゝこゝ
ゝゝゝゝゝゝ詞ゝゝゝゝ七文字
きづめてよゝゝんといゝゝゝ和歌
九品ゝ此ゝゝを評ゝ詞ゝゝゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝ」
万葉四 安倍女郎
今更何乎可將念打靡情者君爾縁
爾之物乎

万十 拾雜賀 人丸集 品
棹ゝひきゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

古歴二　家

元輔集

古今大歌所　御歌

万葉十三

人まろ

古今集

万三間人大浦　夫秋四月家持

万二条禅師　夫雑十四

万三笠朝臣金村

たち

同四山口女王

矢

古今戀一

契沖云刀ハ男の具ゝそれを刀にそふとゝるハまことふあてきさとゝ　ゝるべ

源氏明石巻云さとゝのそゝるゝとゝ

万十一

古本人丸集

同十

同四大伴坂上郎女

かさの女郎

難ヲカヌ

さや

かたな

なつごのさやのうちにつゝみて糸をとりあるさまにてりあり

さこのまを

寛 新方 夫雑十五行よゝ〳〵ぶ
このけつまばかりよこがもゝ嶽きりぬなぞふ新ど夫のあふさうなよ

後拾遺雑四　紀時文
いつまへのちぶはこがはかりうあるを
ぬよさうあぎてあるがたまづさ

姓氏録商長首條云呉國雑寶物為交易其名云波賀理其中有呉櫂云呉

後撰戀四　藤原成國
むの田のかりそめふもまそけるう
いさつゝいねを何ふはもゝ〳〵

袖中抄巻十五云むゝ〳〵ハあふぎを
人ふとゝ〳〵するさまにてそなへ中
〳〵ハよみそめたるゝ〳〵
後撰戀五をゝゝのわらるはゝきな
アそれば中ふるる時ふの男はい
さをりるそあゝきりつげけ
よゝ人もゝれ
ふれいまぞゝ〳〵つゝおもへん

ありふぎ

袖 たまふ〳〵おそぶたのゝめぐきをあぞもゝく扇ゆゝとあづけ和ろん
ヘバ袖

大袖 はの人はいゝけるはをゝぶたあなといまぬハ浦ゝうきなり
たづつきある大
ふなを出するるまたむくと吹風ふあれてまへゝあふぎあゝうん

後離別よゝ人〳〵ぶ 宗千集
そへてやる扇の風ゝも宗
ひがおもま後宗

類從本句題和歌集のきゝ伊勢
の住ハはるる時人の母出ゝはける
はゝ扇ふそへつゝ〳〵る
今ゝとてゝゝとあり

源氏紅葉賀巻云もゝ出ををひきお
どろゝ〳〵へれば〳〵りのふあゝぶ云
がきたるをさゝ〳〵てみゝゝたる
すみいさゝみのぐまぐ眼ぶもゝく
くゝろゝ〳〵おもゝりてゝいぐくをぶれ
そゝけゝ
かハりゝをゝふま扇のゝ

大 ゝゝそいむもゝ今ゝゝかひあゝぶうきぶゝれよおもひよせゝん大
句 ゝゝをゝちぎ出るふのさゝりあゝ扇の風をへるもゝのけあを
貫之集
あふげゝもつきをぬ風ふるぶたあゝろぶゝ扇なゝけを
拾雑秋元輔家 新朗 扇合ふ中務
ゝゝのあふきの風をゝ弱ゝれて京きゝ浦ゝこのをゝだは搭
むイ
このをゝりをゝ扇ゝ出をゝふがゝの風をいてゝふ歌

かさ

百三人九字 そゝ京方
久方のゝ空月をあゝふゝて玉ゝ大ゝゝゝこのをゝにつゝをゝゝ
つゝふをゝ方 きぬゝきふ方 あゝしゝゝ字
ひをゝゝ月をのふぬれぞふるぶゝと前る浦ハさをゝをきぞふを
百五
かきつゝをゝさくぬのすげを笠ゝ扇ひきん日を待ゝゝまぶへまゝる
同 夫雑古よゝ人〳〵ぶ 京人九集
おゝ〳〵てゝ雨雑波すゝ廿三おきふゝ浦ハ強きんゝをゝ形ゝふくに
ナ三方
同 同
ゝ扇をゝ笠ゝのゝりてゝの日ぶゝ形ふを玉ハいゝ妹ゝつげゝを
美濃 ゝ方

る須ヲ用ヲ

古今大歌所御歌

ますほをとる手まよりてらぐひまの
めよてふくさハらあはぬ花ごろ

風俗大中臣頼基家
ひさくの山をたのしらひもおろ〳〵ゆる白ゆ袖をぬらしてぞ出く
山城
新十誹諧頼基家
ちるもみのてハきてもふるべく雪ふるふるをぬるさをふる梅の花ゆ三
つぐふさん新
万十二
かさ手〳〵と人のいひくる白づくこそうゝ見ゑすぐゝ袖ぬれ行白
同 續後撰騎茨人在 古本集
ゆ那せこゝろ袖をたのゝそまの浦のふ雪の雪をきすそきゝる花
摂津
つぎ古
第二巻出
きゝこゞきゝる三笠の山よりゆる雪ゆたゝてゆゝ立もするうれ
万十一
つぎもつゞ使をまつとせ雪をきゝで出つゝそゝ白ゆふ〳〵ゝに
ゞ方

みの

同十二
久ゝゝの白ゆふる日を玉門ゝゝの雪をきゝでゝる人やたき
きゝゝ方

うゝ

古意五ゝゝ
さゆゝゝゝゝめあゝぶ人の白まゝあれゞ忘れぬゝ数ゝゝめゝゝ
新十哀傷元良親王家
ゝゝをきゝゝうゝゝゝやあゝゝゝのゝゝみまもゝぬゝゝゝゝゝゝ
笭箵ヲタヅ
ら新

和名抄竹器類云四聲字苑云笭箵
漢語抄云 賀太美 小籠也

契冲云此うゝハ上の形見ゆゝをのせめ
ゝの笭箵ゆゝれたゝハ誤りゝ

古意四ゝゝゝゝゝゝ童
あゝでゝゝて見ゝん中ハゝゝゝゝゝゝ

第一出 以風の袁袂ふ一法、まれだおもふ人なハ法ふきます

いろ

貫之集 あさ紅ともうしとも思ふ色や落る涙よ袖の志ぼ(そ貫)むらん

古意五小町 家 新撰 サ家 色ぬきでうつろふものハ世の中の人の心ハ花にぞ有けるそあばこそ色ともみえめ墨染ハおどろかぬもたつるゴ名武

古意五 築六重出 まふれど色もうつらぬ色を一もいろ有る色よ思ひそめらん

よの中ハ人の心ハ花ぞのうつろひやすき物にぞ有ける

同雜上 近院右大臣 新撰 色なりと人やうつらぬ(ハ古)ふきんよそめて一もの哀

續後意一 ふ古 おもつ袁ハ何ハ色とハ(も續)ねどもたゞ深くの心思ひそめ色む

夫雜十 紅 築六重出 後まもなく紅ハ二輪山を見るにいろハ(も夫)せるゝ山

帛(キヌ)純裏衣(ヒトヘノウハ)も又十三(ミツ)も當土(トウド)足迹貫(ヒツラヌキ)も又十八(ヤツ)も等能乃多知波奈比多底里爾之氐(テニシテ)ともこゝ

此ひゝ伊とふてふるき詞ゝ万葉五ふ直土爾蓑解敷而(ヒツラヌキシキテ)とも又九ふ直佐麻乎蒙者織服而(モニハ)も又十二ふ赤

同 かくらくとませの山をたそくとひとすめ神のまにまに

拾意五 紅のやまぶの衣かくあぶ思ひそめずぎみぐろ計ふ

童 かくだろうこゝろ思ひ事ハ山の色ハ出ぬべし

貫之

後拾下 童 吉野川 もみぢ葉よ流ハ山ハもみぢ(ぞ後)ハ千ぢ

童 いろふ一てふひとりくさんふ思ひやまの衣まろうくまふ一て

古意四 ふ古 ふの和ぞ深のいろぐ(ふく古)ふ一ハ思ひ一ハ人ハ(ぞ古)

万十一 古本人丸集 ふれ(ぞ古)ふの和ぞ深ハ一ハ(ぞ古)あぶ(ぞ古)ハ思ひ思ふ深つまもちて(ケ方)ゆくべきものを

ふ妙の袁袁ふ思ふ思ハ思ふ思ふんいうつろふんやも

古雜 諧 ふ袁ふ深一ハ思ハもたのまれずくを(反オヲヌ)あくるうこるとふ(そうるてふと古)ふ思ぞ

同意一 人一ふぞおもへべくる一ふの末つむ志の色ハ出ぬ袁

万十 拾意一 人丸集 下ハ拾

[illegible]

[illegible]

万十六豊後国白水郎

[illegible]

第三巳出

[illegible]

続後秋下 代秋下 やま 続代

[illegible]

古雑上 [illegible] 古

[illegible]

同 伊家

[illegible]

万十 夫春二鶯 赤人集

[illegible]

古今雑上

[illegible]

[illegible]

文選任昉天監三年策秀才文云昔紫衣賤服猶化齊風

同四麻田連陽春 歌名集 夫雑十

[illegible]

古意三 [illegible] 古

[illegible]

万三 新拾意一 夫雑十 家持卿 近江 [illegible]

[illegible]

河常夏

[illegible]

[illegible]

続古意 [illegible]

[illegible]

古雅譜 家

[illegible]

みどり

宗砌

古春上 寛 新撰 家 卅朗 風体
[illegible]

拾意三
[illegible]

拾 本拾 の拾
[illegible]

いせ

同雑上 家 あ家
[illegible]

同春 寛 新万 新朝
[illegible]

ふじき

古雑上 新撰
[illegible]

せきね

同秋下 新撰
[illegible]

後秋下 ど後
[illegible]

後撰戀四
[illegible]

新古今春下
たが為ふあすはのこゝん山ざくら
こぼまてゆるへはのうさこん

寛平歌合
なほざりふ秋のこゝろふ入ぬまゝ
ふしきのうへに花をこそきれ
日ぐらしふ秋の野山をかくれば
こゝろもあらぬ涙をぞきる
契沖云ふしきたちきるハ立ぬる
あり裁剪ふハあらぬ

同
なほざりふ秋の野山ちを分ぬ錦を後 ぬ後 きを後
たゞこゝろ

古秋下 新撰 家 大和
[illegible]

あき古
[illegible]

貫之

後秋下
[illegible]

たゞふさ

同冬
[illegible]

てゝを後
[illegible]

忠峯

同秋下
[illegible]

やまの後
[illegible]

いせ

同
[illegible]

史記項羽本紀云富貴不歸故郷如
衣繡夜行
前漢書朱買臣傳云上拜朱買臣會

誓太守上謂賈臣曰富貴不歸故鄉
如衣繡夜行」
[illegible]
榮花みるの月は巻之
[illegible]
くるまもやハたちやそひけん

後秋下 [illegible] 古本集
[illegible]

万十一 夫雜十五 [illegible] 古本集
[illegible]

後秋下 [illegible]
[illegible]

古秋下 [illegible] 新撰 大 古本入九集
[illegible]

後秋下 [illegible]
[illegible]

同 [illegible]
[illegible]

法〻ゆき

人も

つゝゆよ

[illegible]

ひとまろ

華陽國志云錦江織錦濯其中則鮮
明
文選左思蜀都賦云貝錦斐成濯色
江波

本文題のゝそ弘仁ゝ云工本
藏本ゝそ補へゝ
延喜主計式云上総國呉服綾同遠
江國呉服綾白二十疋赤十五疋云云

ひとの條已出
[illegible]

あや

万七 新十意二 古本集
[illegible]

いと

古意四 [illegible]
[illegible]

延喜内藏式云中宮御服料云云右
年料御服以寮絲付河内國依件雇
織所収寮庫又云染手二人染女四
人云云
又主計式云凡貢夏調絲者伊勢三
河近江美濃但馬云云右十二國並
上絲とゝも

万七 夫雜十七 [illegible]
[illegible]

童 せき童
[illegible]

和名抄蘇絲具云絡垛楊氏漢語鈔云墜々

万葉十二
嬬嬬等之績麻之多田有打麻懸績時無二戀渡鳴

續紀云神護景雲三年三月始毎年運太宰府綿二十萬屯輸京師

後拾遺戀一　能因法師

ゆき末はなほ飛ぶことを打ゆみ
けよのほそめは糸あやぐとも

みぐれ糸の糸まはふみぎあーぐ見てくらんと思ふ人はあるまじ

沙弥満誓

さらんまぜい

万三　夫雑十五

きくあひの法くのうくふまうみてまぐたきなげも　吸ゑうろ西

ぬの

同古　拾意　夫雑十三　里袖

玉はのみさらに調布さらくふまろ　あそこうのあのきくとうの布　き万夫　人の　いまに袖　ーきやあぐで

みちのくにけうさあのーほどさぐーまぐまねあ恋もするぞ

古雑上伊勢　家

たちぬそあ　ーきるくもなき物をあよ山形の布さらくらん　ーー古家

同承均法師　新撰

詳たあまのけてさくせる布まわやよとてうれどきくくもなーき　いと新　ば新　と古新　ひき古新

同橘なりもと

ぬ　ぬくてさくせる布をたあぐくよ　ゑれくとやけふふのさまー　らの倶あぐ

白ぬのさくに布ゆもあくぬくよあぐらぐ　ゑのちちゆーーよ　山城